

活動報告書

報告者氏名： 中澤 由紀 所属： 県立相模原養護学校高等部 記録日： 2013年 2月 12日

【対象児（群）の情報】

○学年

- ・高等部3年（30名） グループ学習

○障害名

- ・知的障がい 自閉症
- ・アスペルガー症候群

○障害と困難の内容

- ・発語や文字の読み書きが難しい。
- ・人間関係を築くことが難しい（時間を守る、コミュニケーション、順番、相手の立場を考えるなどが困難）

【活動目的】

○当初のねらい

- ・修学旅行の行き先が、沖縄や北海道など修学旅行の定番の場所へ学年の諸事情により選定できなかった。修学旅行の場所が四国に決まり、なかなかイメージの持ちにくい生徒が多くモチベーションが低かった。そこで、縁とゆかりをつくるために香川大学特別支援教育コースの坂井先生の協力のもと、Skypeを用いて、香川県の学生との交流会を行いたいと考えた。生の方言などを聞くことで、四国に興味関心を持ってもらうことを目的とした。

○実施期間

交流会は4月 25日（1回） 事前学習では2回使用

○実施者

中澤 由紀

○実施者と対象児の関係

グループ学習メイン T とグループ内生徒

【活動内容と対象児（群）の変化】

○対象児（群）の事前の状況

- ・クラス替えを行ったばかりで、落ち着かないことが多く、廊下やさまざまな場所で人間関係のトラブルが絶えなかった。また修学旅行について不満をもち、なかなか前向きに学習に取り組むことが難しいがいた。

○活動の具体的内容

- ・香川大学生との交流会を持つ前に、SST ゲームを繰り返し行った。本来であれば生徒たちの力でグループを決めさせたかったが、まだ難しいという教員団の意向があり、交友関係の将来像を見据えて（卒業後も繋がりそう。繋がってもらいたい。などの想いを踏まえて）、教員が6班のグループ分けを行った。この6班ごとに修学旅行に向けての校外学習の計画をiPadのSafariやマップで調べたり、Skype交流会に向けての質問事項などを考えたり行った。

○対象児（群）の事後の変化

- ・ **Live** で聞く方言に、とても興味をもつ生徒が出てきた。グループ学習の際、必ず **SST** ゲームを行ってからグループごとに **iPad** を渡し、さまざまな学習を行ったことから少しずつグループ内での結束力が出てきたように感じた。
- ・ 習熟度別ではない学習集団だったため、読み書きに困難のある生徒であっても、**iPad** を用いることで、写真の拡大が簡単にできるメリットを生かし、積極的に指さしたり、自ら操作して写真を他者に見せたりすることができた。日常では写真カードやサイン（10種類ほど）を用いてコミュニケーションを行っていた生徒が、いつもより積極的に自分の言いたいことを他者に伝える経験ができたという。またグループ内の生徒にも、伝わりやすかったようで、生徒同士の意識も変化が見られた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき エピソード



↑香川大学との交流会



↑修学旅行当日 高3、高2で通信

- ・ 交流会では生徒たちが出した質問事項で「うどんは毎日食べますか。」「マリンライナーの乗り心地はどうですか。」「四国のミステリーを教えてください。」などインターネットでは調べきれない（答えが主観的になるものが多い）質問が出た。大学生側も丁寧に答えてくれ、生徒も納得のうえ拍手する場面が見られ、大変貴重な経験ができたように感じる。
- ・ 修学旅行では **Skype** で交流した大学生と一緒に、香川県の金毘羅さんにのぼることができた。事前に顔合わせをしていた分、生徒たちもワクワクしていたよう。事後学習の感想文にも大学生とたくさん話せて楽しかったなどが挙げられていた。
- ・ また修学旅行当日は、高等部2年生とも **Skype** 繋ぎ、うどんづくり体験の様子や、修学旅行での活動を見せ、来年度への期待感を膨らませることができた。

<修学旅行での取り組み 番外編>

- ・ 生徒のなかには、自分の携帯電話からツイッターで様子を更新している生徒がいた。今後は修学旅行や宿泊学習での様子を、保護者向けに学校でアカウントをとり、個人情報に気を付けながら発信できればと考え検討していきたい。